寸菊硯屏

特別
へ13
3633
11

内へ13
3633
巻 1-5

寸南破良意

昭和三十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

序

北ニ里連(ツラナリ)南ニ海深(フカシメ)東ニ川流(ナカレ)西ニ山高(タカシ)各遊所(タリ)爰ニ近頃新(アラタニ)一場ノ築ニ埋地ヲ鵠テ呼ニ蒔ノ鶏ノ嶋(シマト)然ノ後ニ家建軒ノ並テ嶋ノ守集リニ此ノ所ニ

宮内省圖書寮文庫

搆茶店美給女數多
抱置諸客點茶饗應
故此遊樓增日盛夜
繁榮就中若輩是賞
翫彼戯蒟王例被欺
誰言延鼻毛無津頤
寸會交重度時主親
悉雖是制不顧禁言
遊耳猶募心不得止
隱忍通行是皆所致
血壯於爰打或冠亦
後横根云種物抔生

苦痛至此節雖後悔
有其歸哉予好人任
誘引暫遊頗盡仍綴
此書題寸南破良意
懺悔不詳通人莫笑
爾云

東陽流人
南鐐堂一片自序

安永四乙未年仲夏

モクロク

子ンキモノ　イチザ

シンゴザ　ハントウカブ

ショクニン　ムスコカブ

キヲイ　テダイ

カミユヒ

年季ある者

そふかゝ面立て武家浪一まいたくハへ今夜て
内の首尾ゝしゝ賞ゝ心ざゝ迎アの繁結の事と
待りの近ゝとたゞゝて繁と結滝湯小入住者せの松坂
酒と着かへぎせるゝ出だて入るゞ人へかゝみてださ
一時ゝ二ゝさの拾ひと玄関坂ゝゝの戸と志めや
いを疲食もしてゝくゝらの首尾ゝりけゝゝい意
くゝつてるを出て行

引き小女　居残りて　年季ある人　コウ　長月ゝ

漕りんぶの 小女 びつくりして杉さ出おるんー 久 かこさんハ
小女 いま裏れそうへ行るさつさアおあがんなんー 久
そんゐーきさゐあゐんでらぐさくしく 小女 元結紙もはらまれと
こるやーにおくまをメ結杉樫の樫とさー新きみかと祝づこいろのおを
せふ・ゐーアんでこのりん・悪おもすの数ゐり悪ぬゐの敵おひかさけろ
かーアくこる祝のあるとんくくくくるとうくアと戸とあけてまとふきかくくぐるくた 久 アイアくサ 加
フウ久さんこおつくいろくぬだこと・ぬ・ぬ・ぬんー 久 ぐこ
ぐおまへ連て行てらん祝へ 加 ぐこくいくくノウ 久
ぐこでもいくいふ 加 そんゐーんゐくいつゐの八ウ目屋サそのとき時の
ちよーくさんをよびゐさるろ 久 ナアニサあアやア紙祝へを

加 ゐぐこくあのゐハいくゐぐさぐのフウおまへあんまと久くー
ゆりぐこくくまてよびあくいのこかまやア志祝へ小 久 ニエ
までもサぐまでもいくかくくかまへ乃アんくてぐ 加 そん
ゐくくあのかくだみよつて・あれるよニアイ何でも出おるん
コウ・ちゐ祝そんゐに祝ふつて祝あずと松さんぐ今教
来るくづぐこくく・腹へ出くくく祝へやくくに祝せて重ト
しやサアロ出ゐるんー ヨットそこハぬゐアやを・と出くを
八ウ目屋の・ぐぐ・御出ゐぐよ 八ウ目屋男 出入まヤるさくへ 加
とのぐこくこと
大阪ゐさやこぐのサアお這入るんー 久 えいる 男 ニゐいへ
ゆく

加 久とつまて ごと上る 男 庄屋はくろひあんぞのあるくようふか
ちとかきたてかう〜〜
ゑまし〜〜 久 アイ 加 コウ 新助ぞん おくやさんハ
ゆるうの 男 へ立寄て まや〜〜ようと 大入とおて 加 今夜
あつさでござす 神へおまゐ ぼつまり かゑるぞろふ
庫とくやくさきゑ〜〜ノウ 久 アイ〜と 神たふ〜〜 男
ゆり かみさんちよと 加 ゆうぞと 事と 男 ゆうさ
やく
加 ナニサハテウゴのるに きゑ〜〜久さん大事ハ 久 い
のサ 加 ソンナラ 新助どん おふうさんを ゆうて 来な
男 アイと 行 八百屋 女 ゆ事のメざゑをぢ〜〜〜に 新ぞん
ゆづまか〜アゑ おいまゑうふ 加 新ぞと 外

おし 原酒 と 新 て 加 さん 中ぶ〜わちよう ぶつ〜しまの
さうづさうりつて 来て 加 やうまし いハぞ〜〜ぞ ぜ ごろハいそぐ いうの 女 アイ 今 和
外 重 ぞ 二つ きふも 言 まで よ十八 あつさ 加 そのうる
あるやァいく 女 かみさんぞのるぞ 加 まぞ ちれ 神ぶ
ちさんと 鉄 よやりさ 女 フウ おふうさんぞ あまバいぐ サア
加 ぞさん 上 ア てんな と下へ 加 サア 一つ 山 あぐ ん
ぞ ちよ 所へ 来る 久 ハまちる たるに 女 ぞ 服 ぞの ぞ と
ちれ く ぞ ぞの ぞと あやに すら あたりへ つり
ゑ ろ ぐ ぞ 神 ぞ ふの ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ
ゆ ま ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ
ぞ

おちなんし　ときづきとて　久　さうづきとれ　加　ぬさし
ちんし　久　女郎　そうと　女　ほうくと　加　はぐ　女郎　コリヤア。
おそぐいおつぐ　絵　まるもれい　加　なぜのこるんせん　女郎
インエうんや　今　新ハぞさん　酒さらふ　加　フウと　女郎　久　へ　上や
ちうう　久　のしまして　又　加　ろうらぐいでいて　西新
にちうう　○　女郎　ぐいさへ　何とつ　てしまぐ　新　ろうでョ
ぐうんぜなのがわしやうい　加　いて　ぐうて　絵
女　まて　おそさん　内　うるびみ　事　加　フウ　今
いくしゆつてやんな　女　ちり　大きふうで　今　か　絵ると

加　久　とげへはうめとおさげるんし　久　アイ。し。
ちうう　女　加　サアお体　こるんし　ふりにおん
ちんし　ぬ。　女郎　おでさん　ぬるうし　ぬ。おいそぐん。
のまぬへか。　女　一ツおふるまくるんし　でのむ　女郎
家ハ　女　ふぐ　おつちくおぬるんし　女郎　サ
しぐ　久　とはまて　おまへの　内ハぐぐ　ぐ　ぬ　久　ナニ　ぬ　ぬ
家へ入
女郎　ム、　ぬ　ぐぐぐぐつちぐ　ぬ　ぬてうんなよ　久　ア
○　女郎　久ら　事　とつまんでうるぬ　家入　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬていへど。女郎　新　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　

久 ほつとそつ帰るやちやうしとおきる 女 きたいびつくり
しようがそんなるがかるくるんすちつとまいれん
ど間へ遠へよろふ。ふとも豊伝ふもるめるまておまへ多
だそへやいのハあるう 久 ほざくす。男 草履 ふとし 男 ち遠い
うちまるゝまも 女 はごろふよ。くるくるゝ

一座

きつハ為隆入用かし犬の陳坊しまてゐる
かゝいの時間小屋るハきたいひざサア今かゝ濃変

しいの所ハざゝざ宅七しし茶屋で隠し春の二で
い機嫌ですめかけるハ坂田屋の今藤として使
服もする。伊勢ゑれど尤がきくるまくぢアもがちるり。
ゑがアとの蔵并屋の宅七宅 宅 いぬ丸サ志ゝ
ゝふハちつと帳合れ仕けが 金 伊のぶっさぶん
るゞせ〳〵 宅 ソシテ半兵衛と二人ら 金 ムニヤ横町の。
演舞屋よある浪人ハ未次も伊ふいつさ 宅 ムウ
来もらそんるゝこ人よ沢ふく〳〵いさこ之蔵人義
行ひろ糸してみるとたそん 金 二人 サアゝゝやくそくの芝居〳〵

末 ムヽとおのアく能福て居るものと。宮に人生も行くろ
定 ヲヽサてぞ〳〵行いでぞ〳〵ちろ〳〵 末 そんなろ〳〵
ちろ〳〵ぞ〳〵ぞ人清一か。ぞ人中する 定 イヤアめてりにろつさと。アくへておるろ
〳〵ぞれろ〳〵四方のいさ者。家をひろしといよ
りんぞ 末 何のぞぶ〳〵ぞ。おりつて。安〳〵もとるるサア
とこ。三人つれを五へ波きの徒ちろ。 徒 こ人ちろ〳〵ぞて〳〵
湯ろへ。ぞてもぬぞひろ〳〵こ
金 ちれさ市事。芸ゐサおあ〳〵 徒 あ〳〵ハ又地獄へ
でも行ろし異りさ 定 ムヽるわど。鬼とろいじにろ。
亀をひら放るぞ〳〵いふてろし。こ人員とろん金也。徒ハちろいくせぶぞ

ぞこき男ろれハだま
して居れ行ちろ也
ぞ〳〵き屋へよる。三人ハ
ちろ合せ徒とりぞて行 徒 てんろ事でおろ〳〵ちりろ。
ろるゐぞ〳〵 三人 やろまりい 川ぶり おそろひろん
してよろふ者ちろ〳〵。芸屋ろ〳〵のお場りげく
定 あろり〳〵芸屋ハ出し汁さ 加 そんろる
でぞ〳〵ちろ〳〵。三アぶ。ちろさん。おゐんろん。小女ハひ
ゆとろん。 ○ 四人腰とうけ。ぞとあ〳〵て。 付たらいへ
で。出す。 ○ 三人腰とうけ。ぞとあ〳〵て。 金 ちつと人福へ
うちぞ。ろ屋ぞ。大きく。ろつさ。ぞ。ぞやアり〳〵。ぞで
まるハへ。かゝさん酒と。ぞ。ふやん福へ 加 アイ 定 コウ

かこさんより。何の時ぞ 加 きつよハふつてごふう。鼠るるう
でもまぐハつでござ〳〵ちよう〳〵。こらよハり〳〵せつまつるまど。
ぬしなりひ。きこと。一切ハ。 こどらけれバそんとておそバ
うるこ。きろ。きまでハつとハ。 宣 そんなる〳〵。金ぞ〳〵。こなでゐるを
のひいひぐで。すく〳〵ふごそぐ〳〵。行ぐいく〳〵ウ かこさん 加
ぞれ。ぞがよふござ〳〵。 旨 そこ〳〵。こつまこ。ぐ〳〵と。こ〳〵
こてゆく。中に。ぐハ。
ふげんとそれぐいぐ〳〵きこのかに。金ぞ。ひ。ぐ。こぐさぬやに
もと〳〵せるゆくら。ぞ〳〵。のんでせ〳〵るもかに。行。女房なし
大口屋の。 加 ハ。家があるよ 女 おうこさんが。ぞるんし
ぬとのぐき。
おい〳〵〳〵ぐ〳〵 加 ハ。ぞ。人ぐ。ぐ。ぞ。ぞ。ぐハ。ぞ。ぐ。ぞ。ぐ。ぞ。ぐ

加 うまいそうに 金 おくさまがきいておくれる。
ひとん衆いつてよこしたいふ物まこが金りらの金
米拾ぶつて 女 ヨヽ少々〳〵しい 宅 コウ かゝさん。
よそのゆしハさん極へだゞめる。○かゝアいと。女つ
けあるゞ。盃まきこりり 緩 ゞ〳〵うこいやゝで 義〳〵しい。
そこの蔵ゞとあけて。女せゝじゃ 緩 何ぞうまそう
る。拵げる。〳〵下げたれバ。未ハこるゞで 未 ゞ〳〵かゝさん。
女郎花ハ 加 アイこるかさん中〳〵ゞ場ゞよろこふ祝
宅 何でもうくしいのゞい〳〵。女ゝアイと 加 そん

こんな。お初金ゞ〳〵淳ふいのとおへてゆふ。
やんな 女 アイゞんるゞよろこふ祝 加 ゞうも。
お一ヶ月〳〵いふ拵ゞう〳〵おれ極へるゞ。おまへい
やゝにゞてこん極へ 女 アイそんゞ〳〵こちらゞ。
何でもいゝのと働ふ。こらひかゞ〳〵ゝのかゝを
ほくゞ〳〵ゞこふゞこふてゆく
金 緩 先生 養ハ 緩 何ぞの事さたゞ身の事 金 ゞ。
ゝゝゞ〳〵ゞ戸ゞ〳〵ゞかゝさんうたふ 加 わつちも。
ゝりやせん 金 こいつハいくゞやア極へ 宅 何の為ゞ
のゞせゝ 金 そんゞ〳〵こいく 宅 サアゞ出絶板で

かこさんまへ一たいつぎざかとべリヤンヤへチヨイサイ
ヘリウカ 定 ヨワトあげれく 金 のむともく いと
更へ世ロ人ハ出るゆうゆう女ハ出くかる。おげん・お附・おこの・お竹・
とかくびゐ宮ロ人の顔とぎろくと見る。金盃ととり出さん
かくし 緒 イヤく 出さんく いとを カイ 緒さんく
おげんがよりふござくせふと金ぶ新を 金 ヲそれよりよ
く ○緒のびまよしておげんへさすがに新ぎまり金定
来と伺きも必よさく絡つて紙ほふかるを未廣を
出して 未 コレく 寅ふもはこがあるゆ。とあるのまくく
おしてどか紙すてびゆうゆう花のとふ亜。 女ロ人 ヲワト山あ
いつもしぶ強し投扇のばくあア
らく 定 サア 伺まぶく でいさろくてゆ

ゆう 女ロ人 よりくゆんしあんまアさらぶゆんすか
女 モシとゆるくも伺茶漬とよりませんゆ 三ゆうく ゆう
らふく ○ 女腦 ゆうちまる金腦を
ゆうてどらく ゆうさとのけ 金 伺ぶ白莫の汁の
モウ子ゆ出来ちやアいゆ 緒 伺ぶふもく えも古い
やつよまゆく緒ゆんせ ゆうゆ新いふ亜とぶんと
食て酒ゆ伺事としのく 緒 ムシヤ ゆと 新と
ゆ出せよ 定 伺ぶぬつ ゆうゆちやアこてくとぶと
ろちく書として伺ぶぶ乳ハ 五げん アイ お附
さんゆ昭ゆちく モシエこを大ひを

さつちくだらんぢ　ぢ　女　ちがいなく　泥棒と　ひとる
はいかいはいかいの　金　コウ　ちつと　ぢと　大キク　あいく
ひとり　にはとこ　ぬり　哈　油　を　も　樣　ば
ひつぎ　女　ちがひ　ヲ　モ　ちがいなく　ちがふ　女　サア　ちがさ
もはうへ　ちんし　加　モシ　おくあぬ　ぢこと　一つ　ちく　でう
だく　ぢ　ぢ　○　ぢ　ぢこと　入　と　ぢ　ぢ　加　フウ　いきまで　ぢう
さご　孫へ　赤　ぢう　ぢと　おそ　ちう　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
のさ　加　へ　上　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

長年ノ年十有余ヲ経テ、獣面切ル家ニ
大蛮白鬘マデ、アヒ成リテ、面トビン
ばくり、元結ごくさんの、髪、中剃ルこの、羊
義色の、玉、小ゼでお、厳美ゴウ、同ゲの、羽織
大小よこくきん〳〵ゴウ、扇ばらく〳〵
かのゴウゴとでい、祝いよたゴ、屏風へうけさせ、常
と解て、床の内に、ゴウ、ひゴウ、濃ゴ、シタイ〳〵、釈ハ
くれも、ゴウ、ゴおるよれ　女　出火ハごぶ〳〵すゴ
ぶぎ　コレ〳〵、教まふ〳〵　女　ナレデござ〳〵ゴ　ぶぎ　何ぶぎ

でハふい、歌ハごゴ〳〵じゃ　女　今、茶ばけとゴ〳〵てゴ〳〵
ゴ、ゴいひ　ぶぎ　まゴウタイ〳〵まゴ、ごまゴ、柳ハいゴ〳〵ゴ、ゴ、ゴ、ゴ
はやゴの　女　うゴ、ゴ、ゴ、

でゞくて。ぶざひつ。お花ゞゝうて。ぶざでゝゝと。お花ゞゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝ

ゐでしいるすがあつて、翁ばかりで、えらぶり
で、でゝくせう　お義　エヽモ　ふくいのうゝくゝとのゝくして　すセワト
きせるでゝり　すセ　武さ、くさづくのんで、ぢて居しが
きせるがけがまさせう。　すセ　ようよ、体さら、ぬまして、成
ゐりくゝだやくゝさし

かんまんちゃん　[illegible]　[illegible]　[illegible]

押ぢうくいよ下ん、病気もすべて伝病ゑ。
ゝんぎーで、ぎのまとさし、火ぐらして焼く 伴次 そもつと屋き
や 女ろう くろうろう 女 庫と、サア庫こちんーこと行伴次 ねさ、おせん
小用ゑ行、りよりよりゑの
こーゑこの枕二つおそまて 女ろう りー枕とくゑ 伴次 ム、、と、枕と
くゑる、寄ろだごと、紙よひ枕つて来て、火入よ火ろふ伴次おん
ごーてゝ赤ゑまづ二ゝ吸、ま、こ伴次のて吸ゑて伴次ゑて
ます 女ろう 伴次の中へ入りー上伴たのこぶゑろよ 伴次 ろんぐ
女ろう いろそひひぐいろくゝぐゝぐゝぐさすつてぐん伴次
伴次 工、屋ろまーいいといひぐゝ 女ろう ぐーもうふも若た
成ま平ぐろうりぐろうゝゝ伴次ぐれでこ紙よむものぐゝ
ろゝ 伴次 何ゑ者ふろる 女ろう 芝れるうさ 伴次 伴まつてくれる

あつら祖へう【おせつ】は中れまでさげさてこ家ゞ家ゞ
ゞ祢ちつと沢ゞ家て変ゞ変改さ【伴次】ム、と半
【外の女】陽さのれうゝ、【おせつ】さんおけてもよりら【おせつ】お咲さき
食ゞ家ゞ家る。【おせつ】びやゝぶのぎゝれする。【おせつ】勇富まして。【おせつ】
ゝゝこゝとずい分てやるお咲ゝつくゝのむ
ます〳〵実へ世ゞ【お咲】ムニ工今よひ立のおくと逆さ
【おせつ】ゞまゞゞ【お咲】十二祖金ゞ【伴次】目とぐちくしておされ
ゞゝ【お咲】陽春さん。お出ゞ【伴次】ナゼいん和し
いふ【お咲】名と言ゞさゝ【おせつ】こゝ【お咲】食ゞ【おせつ】ます〳〵
芋ハゞゝゞ【お咲】ゞちゞ中ゞゝいゞ【おせつ】八食ゞ

【お咲】ムニ二工八さんハゞゞさゝる【おせつ】フウてゞやアゞり
いゝウ【お咲】ム、ヨ長ゞ中アゞゞちゞ長さハなゞんゞる
ゞゞゞゞゞゞゞゞれどのゞゞも門ゞきびし
いとよ【おせつ】フウゞ人でもよりゝおゝゝゝ家ゞの近
てゞゞゞゞ【お咲】はゞゞ長ゞる家ゞひとりのゞと格を
ゞゝゝてのゞゝゝゝゝ来る別際のあゞゞゞゞ
長ゞもゝゝいてゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ長
するゞゞよ【おせつ】フウてゞゞやあいゝウゞてゞて
ます〳〵のゞゞ悪ゞる長男ハ【お咲】十二あゞやアのゞゞ

ぬぐうてぶまつて紙ハおたんを事といふて乃
服を立てるが手代りが出ぬ出ぬ所ヤアてふ
いつてやるハる　ちやう　フウ行でもおまへハ濱山しいの
うちハ又てくしく若しいるちまへも知てゐるぶ
まるの中もきてあるのまあのあハ乃裏擅へ
出る時るくの河原でのぼかこふ知さやぶでへ
ぶの紙あの時おくだつてるがのてのおつちる
切みとよこうこうんないあハ延りのぶ
事のようおやまつてきてのぶりでもウ

お延ハ家まへこと宿ハ表指へいくしよとそマア
切れるよまへのムニヤりふいふまへ邸宅るい　伊次
何きてぬぶりハ猿ハ　ちやう　だまつて居ん　ホン三
モウ　わつちが極ふけて延べのハ延へハ白ハ
ぶで自服でも切ら延けてあるが延しい地
ぶ　宗次　こまつてうんぶの。伊次人の用でりけるとおり
くもしてと　おせつ　おハさんでそつちとひいてぶんぶる
思つてゐる　お前の髪ハぶ行ぶでよいつてりつてうち　宗次　ムレニヤ
うちハいつぶナセるいう　おせつ　ムレニヤコ　ぶんさいつてよ

せんさくなまじゃあたまげが紙屋のふくハどう
移[ちやう]ごろもをぬぎついて移ぐちまつ移へる[ちやう]
はしの弁ハぞうぞ[ちやう]いつてがしあさがのごとはは
二面がるるうさうぞ紙買移へるとやあとそとはは
湯ゆ行くぞや移ゆ[ちやう]ろちやあ紙の湯ハぞうも
いやごよ目ハ六ゆと天ゆで湯がそぞろふ[ちやう]りう
行て移ふアイりゆ[ちやう]ゆ[ちやう]ゆ[ちやう]

仲人なれば、くるも
きつい、さんざ、さし

職人

[大工]ぞうさく　唐犬額、うんざり、鬢の茶釜が田。
びろうどの、後げけ　[女]髪結の布子かぶりの者。
未刻時分のひぢりうんの下帯とうやさて、ぎうけ
[大工]ぞうふごおろひとしぢく　[小女]こてもり　極へする極へ小さ
[大工]何ぶぞする極の、すいさ乃と戸おりじやアあくまへ。
コウゝのひうまぶさ　[小女]何ぶざ　[大工]ちちとこぐこを突て

きそうれ　[小女]後ハへ　[大工]そ中にてコウ　[女]ぞぞ　[小女]こて
すきさの事といふてこぶとのひ風へ　[大工]おさやアぐれ。
ふくいけ、ぞうり　[女]後じやアぎついまごつき、ぞうの
[女]ぞうの、やぶもとゝ、後ハ、ぞいてくれいり。何ぶざ大きふ鼾ぶ、未撫小風とるねぶ。
コレエ、おさうつ　[女]ぞ　びん切まつぶぶの鬢風。ぞて行ぶ
[大工]小後ふ　[女]ぞ　ぞいの小風ぶの　[大工]すきヨおらア年ぶ　[女]ぞ
ぞゝつとぞ、ぞうまつふまぶ　[大工]うぬ小後。ぞぶ、ぞ、ぞの　[女]
おらア、ぞつてあるよ　[大工]何と　[女]こて　あつゝ酒しいよこぶん
と切て、ぞふゝたまゝ、ぞうやアひのへひまぶぶ　[大工]ぞぞ。

必ずしてまくこのごと 五長 ちゃらとらひ袖かすり糸ゆる
やつよ 大工 うてハ袖へよとうぶつて六とめくつてとびふところ
ぐそーてるるやアぐしぐれぶろ初てゆるる 五長 まゝ袖でぐう
する袖ぐ袖ゆゝまくさお市 大工 ちづくく 五長 伝のちぐう
袖ぐぜん袖おのるにるれてぜ中もこのぞやへ伝て袖
だぐやア袖へうくかげんふいちやも働いぐぐて伝のぐ
ア色男でもよ続木袖ぐやアいう袖よよ又あの女も
欲んぐ奴よ袖でもくれるちとアるとひつくろうぐ
らアはぐろう袖ゆゝ米やアぐつてまぐぐはち地ハ袖へ

でゆるぐゝ今までゆるゝ赤のゆゝとちらア大きゆ板っ
たゝよはち地で丈ゆまゆ一たのよ袖ゆまぐぐ小伝で
ゆゆぐゝかいゝぐ袖よゆゆうぐゝくとしてぐくろて
米さうのでさんゆさんゆるゆゆ赤アー袖へゆまへも
ふぐ 袖のやゝでも袖へよゝふた袖へ しきやるて 大工 ゆ
はいゝへかきふゝろ 五長 ろちのゆ活いちめのろちぐ
やけるハゆ 大工 伝のさ 焼るぐいつハいゝよ 追自ぐんぐ
ちぐまらふぐ夜のゆ米安ゆ 追自ぐ追自ぐ
よやアはいゝの附おげゝ ゝまいゝとゝゝゝへ
まゝゝます 五長 うちやゆ

てあるさぶ。そーして。ちまへこらへてゐられやァ。ちまへ
大工 ゑとろ 左官 フウ。おれのこらへさぶ。ちまへこらへさぶ。ちまへ
ろふ。横のこでもこらへる 大工 うそい。絶。へこらへく
来いのこ。なめハ。あいてづしハ。ちまへ。ゴリヤアちまれ
こぶこーアで。信へと。ろうさと。屋根の。ゑんぶ。ちまへ。ちまへ
で。ゑんそーして。色。フウよくこらへ。 左官 久しい。初こと下ッ
てしのゑさをぬて
で。いぶこーとい。ゑさ。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ
左官 いやぶ 大工 ちまへんで。サアア。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ
ゑようんくしわさ。ちまへの。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ。ちまへ

名の事じやア祖父(ぢい)[大二]ヲヨこいつハ[illegible]よく
さぎつて[illegible]フウ地とのう[illegible]ナニ大きなのもらぶ
うつくしいのぶつたよう[illegible]ぬいア[illegible]えへもよアやア
祖父(ぢい)[illegible]何又ひのひろじやア[illegible]まへ[illegible]コウ吏がかいろ
れぐかいろ[illegible][大二]えぐかハいて[illegible]
[illegible]ろんふうんろ[illegible]ろりのと抱て祖父[大二]ムシニヤマア
今夜ハ[illegible]事ぐ祖父[illegible]ぬとぐて祖父ハ[illegible]
[illegible]ぐかいろしやさ[大二]いてすや
くつても死人ぐ抱て祖父[illegible]ぬぐかてハ[illegible]

の抱ち者[illegible]ぬかんしやくしと
ちんぐやにぐ死じやア別ぐるい惰れ
て[illegible]ところ[illegible]ぐくるう増さ[大二]あんまり[illegible]
して[illegible]ぐちぐ[illegible]ア小でも[illegible]祖父[illegible]
かいぐれてりつとこりちへよつて祖父[illegible]ア
いやアまあ[illegible][illegible][大二]コレアあやまる
うぐぐつちとひけ[illegible]そんろ[illegible]ぐろんしいふ
[illegible]抱のうろうにかしれやアゆびと切てらんふ[illegible]
抱ときつて何の事する[illegible]汁のこふするア[illegible]抱

いろ〳〵ぶと切てをろふ 表 何のそのかさいてこふ
るとうかもウ口とたゝうずと祝ひ工祝ふつゝへまる 大二
あゝかぐ〳〵ゆかやアぐつてまご祝ふ入う祝ふまや ア
ちゝ極へ〳〵ひゝ〳〵
こだまる

息子様

色白でひつてと濃香に髪と結ばれるゝやうに
高氣なる用信高様の厚〳〵う裏ふまりうんの
帯〳〵ゆ帯結とそゝさ寄世るゝ母ごそへ

そこ祝りと祝ふ 息子極 かゝさん おすゝぐちつとお祝
ありサ 引ふく 何のでござりまし 極 ゆ中ふりざ
きにゆさソレ何のとうりよ 引 へエ ちまちるんよと年である
きとかさまうヲソレヨ ちんてのかが初夏この事てござちう
祝りひり 極 てう方初〳〵や〳〵サ 振てうん極へ 引 ふちつアまご
ふてるゝが変ゝ〳〵アきめてまつりやちよう〳〵コレは
茶ととケや〳〵 ○ 極ハ母ソレとして火ぐちく 引 ふうり
ゝでざくとサアかゝるゝ 何ふまてざんざんてりう
おちよどん二後へつまとトる ○ 極うたにつれを 引 ゆくゆく 引
女アイ〳〵ゆて行 女ちと 引

コウ
おすこうぶごよごさんんこちまくこのがやこよでくさ
孫やくにこのくまる 宮玉 おころろ おださんおんんくこと
ク 二ろ帳サア一ッちあごんるんし 徳 つぎるさんる カク
りーエちまくの出又を和どあつてなのるハてくく
ちをいまづるがくるぶごといふ浮利の儲さかを
ぐつておやんるんし 宮玉 おころ初 ゑちりのりん分ひくささぐのこの
ゆいるこちまぐ十六くいとアんてぶつとりやさくこ
いえんくるくぶくてくのてぐをハア おだる
ようくいるるんしさの・こんるくこハ山伝の女ハハるハ初の
ぶくらのるを赤ハるーくるくハハいくくもぶ山ホやと
ガりやしーまくること るりくハふ ク アイ おまくのくるハ

きつてあるがまぐきこくとおくを分おやア孫 宮初 アイ ロ
百あくに変ハ来ちやしさおれくやハ ク つウ今近ハ
どこふ居るんくさ 宮初 エろちるくくれ いくく居ふれをべて
カク りーエおさくるんし 徳 アイくとくるをおかさん
おくぐりぐ孫くとくけるる カク 酒をのこるんせんら 宮初 孫つ
くくき カク のま孫がいくのさ山場ハ女ハ元がこんる呑
よまぐくくつさなのあろうぶあくいよ法が大事ホ
つとるるんし 宮初 アイおいくぐ記ハやせくぶおを分の
くあにおくぐりるぐくくとくとくと

まで〻〻〻 徳 アイ・と・ぐはけて 加 何ぞおとんあん〜
かのひむ
徳 イ・エ・と・何もくるぐこぐこ・・ 加 大数陣だやァさぐの・
アくく〻ぐ〻
やうまいコウおまへおちよぐんを・よびあんし・と・いそ
出るぐ〻ちぐつて・お事の家の安と・生ふハ・
はぶのあ〻ひとけてきんあゆ〻ぐれ〻まへ・安らるし お初 そこの
きくく〻 コウ
ぐ〻て おちよぐん 女 事て 何ンでござくて 加 コウ
陣ぐさ〻ぐ〻しい〻〻・おくの方へでも・座とーる
女 アイ・と・行・座とて サアお出るんし 加 り〻
久り
お伽ところんし 徳 アイ 祝やちう〻・おまへくるう
加 アイ おいと・母ヤ やはぶ・おまるアうと・と・いつて
ゆく

お初 〻〻〻 ごの・さ・と・と・おらる・
〻〻・お初ぐ・おまるとぐ〻〻〻
ぐ〻るしい祝へぐんあ〻〻 おぐさん・お伽よ・と・いひぐーさ〻
まて・とうぐ〻
徳 ホこ〻〻と 解てもよりく〻
お初 三つコリ・と・ーて・こう〻〻アん
小ウおこ〻
ぬいで・弟・と・ちう・と・お初徳の
上ぐ〻と・こ〻んで・屋風へ行ぐ〻
お初 ちぐ弟・と・ちあ〻んす
ぐ〻ぐ〻ぐ〻
徳 ちう〻〻〻ふおまへ・ぐ弟と
ぐ〻ぐ〻ぐ〻

[illegible]でもさ。徳 [illegible] 徳のとこのつとめ[illegible]。[illegible]。
[illegible]の[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

徳 まづ女房とは手で袖のさ 右初 そんなる大さ
を赤の振ふんでと色ふはておちん者ら 徳 御よ
地なるのでといつまとなしこまかしかまへそ
色男とりつて居ごろふ色の仕やをちつと教へて
うんな 右初 ナアニうてだつうり大さいひぶげんそ
といふごでそよ 徳 ちがハ事より
そんなまがれ方ぐ立へハ事やロん 右初 そんなる
なにふ立へ 徳 コウ拍ハ淡合ご有まへといひぶげ
ふ者ら 右初 おるぶりるすん拍ご袖へそんなに
いふうちなさげーこうへ ヱてモあくいのウ ことがうと ひつく 徳
ヲいこイヤ痛くハふい御い 右初 かいうアりつとうひ
分でいつて会ておまへくノウ 徳 ヘヱうちる長てハ
お様ぢ孫 右初 るぜへ 徳 さて答て事まへふいとひふう
さ大方ごでのあにかとつくあるがてそうる事さ
右初 ヱてモ又いひるんすう はたつ又 徳 ヲイタタタ拍ちつう
ふひ分ふう人ふ夜ハなまへのおあてびよ袖てうご強
〈女郎買のこりしりのハあざ弁 右初 何ご袖ぬー
やアごうちが四ふやうふも袖へ袖つうう情が袖へつうど

徳 せっかくのけんぶつ用ん
のさ 徳 ドレ 悪いろいろ。とあるまちまへ
ちゃ 初 コレモ。いて
ちゃ 初 ちゃ。
ちゃ 初 ちゃ。
ちゃ 初 ちゃ。

あぐらをかいて。ゆさぶる。

きあい

燥作いろの。兼毫筆のぞくに。桃色本墨のひと
筆。とぶて。結び。水ぐそ乃ぶ。ふるさまの。
芝月代。ひろいぬきあげ。平元出ぐさの付さ。
大きふさげさぐて入。縞のよぬぐひ。肩へうけ。首の
大きふぎきぐとおて。帯ぐるりと。巻重ね

茶丹のり 太のりぐさとおるくつぐ。○ぐるりと。あるきあぐ

あいつが小使ハでこぎに来ゲて居るやァ赤猫。
こいつァ〜〜おかぶ〜〜にゆやァがつさんぶあくするく。
そこ〜〜に面秋〜〜〜てふさ〜〜いまんろ〜ろ。
い猫も出〜やァで〜猫へいけこそのおつとこきそい〜〜ァ。
ア〜やァぐれうぬ〜〜ァ。と。又先番へ赤〜〜〜先番さんで一ぷのんで。
あるの角とさ〜〜この中へ〜ちまけ。高と又てし〜。
赤つてさ〜〜この 試番へハ高とつけ猫でおいさもて〜せうと
ありとおを〜〜
いよ後ごたろさ山利角と。ぽっ脇きの家へ出とといの猫ご
先ん見で一番ちんとらるハせるハたてと切さ入れ〜ろ。
猫ご猫へ。と。ぷ〜〜んのうと。踏ざさ。ぬぐひでサァ見ろ〜〜
ちんちきさ。ぷ〜〜〜〜けんごぬのでかんぷりりへり

らんちきさ山ざ〜〜を入れ〜〜〜と。いひるぐ〜。ひせ〜に
ふを〜〜 女 来て。ア〜コワ。何ご〜〜 茶番 コレア〜〜〜ぬ〜〜ァ。ご〜〜た
赤ちあのふんだろよゥ。うすてご猫へけァやァ。がつてん
し猫ご〜〜。と。ぷ〜〜〜〜で言声よ。 女 よんで来いとさ 男
ぬぐ〜〜男ハ。ろ〜〜〜〜〜。 女 ア〜〜〜〜〜

あやまる 茶母 何のごといつてアア。地ごくの子んまの子と。
アアるやうに何のごとくだろうぴいやげうしても。
合点し 極へ。 盃を 女 すりしてとあげる 母 ていとあげる
ちうどごくぴー。 男 りーてアちづくよ。 てい母 て六
あんぞうだろうり
なるて
まてりーコレかーらぴうちう拙にや極へコウとれざ
く 茶母 何をぐ頭ぐぴうの芋じやアあるまへじくを
くそ作ごちのーやアていーうコレアあの無れな。
掉でつさぴーやアぎつて。青うう二本といちやア。
ちうわどもら極へハぴうう。 ふるぴ原うへぐじやア。
ろくうろうぴうるぐうへ拙もぴさ極へハまでも後アごを
やアぎろうぴふてへぐろ法けめうへぐぴうめうアア。盗うとするの。
和盗とするの加へ何でもあまとぴるくうりずつてこいぴん
ぴふしてぐれ風へ。 ちぐんざやひぱるふを示の
ふせざをぴよりびかやり。来る 母ざ なさうとまりの。
ぐぴうぎさぬぐひで
むうろと来て
るるやアア極へじやア極へ何のごとかる
おーくも極へぴうちうぎる何のやういざアいやアがるぎうりぐ
しいへだまるやアがれ。 ちがうとうまで。
法へこのてうるをれがぐぎりーといふうへの事よぴの
みで法へ法ける 母 ぴーれ 何のざ
ちうげん
ちるをやアなバ極へよふぐんすハぴーの事ちかうぴう欲

ちよろ〳〵ぐあんまりぺいまへまりぺい【女ぎ】いてまへてうと称
ろへて【鏡】ナアニよやアー極へ【女ぎ】ヲくサよちやアあ極へ
かへてうと極ろへ。と称ろす 鶴ハ大風の吹くとアくるう

女代

えとこあげぺかーえてくる。と方本田。新髪びん通ぬき。
やくとくある男。長福屋の。ぎんいりのとぺんくてこぢん
撥留の袷。あわせ。和ごろもりんの巻。こくろのあるを羽
織ぴらゝどの紙入。唐さくさのくぐを入ぺすいの銀の

てげつぎのきせる。ぺんくう雪踏でまて【女代清】かえ
女とこの次ハあるりぢいたさんな【女屋】ハイおいるみんくさ
コレ二ろへ位れやーしや【女】サアはいるみんーと分てこのへよル
【清】かーあと。見ハいつまくゝ。ゝいちくゝぢやまで。
ちりーはたいきん酒ゆへ一つかゝにらちあるんぢや。
そを青こへいくくいぢや【女】見ろへ。と称ぎくと【清】ふきろ
て。ぎくと。ウタへくんの。ぎくぢまを。杉ぎあとぬてせまりて
くんとハわーや。ぎたくるゝホこテくあこニサンサイサ。るくは
いつもの通り。ぎぢわぢたぺぢまの。ぎでの【女】今くんぢん

人と者ろやうと 清 家でもせうでんぐのうの義者が
あるふとかくへ 上ル りへ 言やうこそ仕や花ちるあるしかうと
男にいつたりるくハなたこのんで法ゆり面 女房 水ぐこの清 びうげ・埋
ぐのふサイのとさ・うすげせう・こびちや
ぢうりんの後分のふ独やうじと者ひるぐまる 清 何じややうふ
ぢりつさいじやの・と陳をのぐさ おつま ぬーやア今夜も貧ぐちう
清 世宗の西りイヤモウ今新ぐりして立てなるじや おつま むぐア
いひるんなこする代う 清 ハテぐうたおるかどにぎづ一ケ
あるれ・とさん 女房 さうづさとなて・コウるやアこまるのう 女
ぐうさうるんすう 女房 大ぐさいつものことりぐろふく

庵と・ー 独へ 女 庵と彩はぐろハ何があつて来るんしと
ぐうぐ庵ハおとまんるんしー・ド一ケ おつま サウ独るん
と小用ほ ケ 清 寝て・セウデンブこへまつきとしこ侍ふ独
むりとハ思ひと おつま 小用ふう・小用に行ぐうぐ者こやう
ぐよ・と庵這入ぐのこぐ貧者ぐりつと語り独へ 清 又セウデン
分二ケほ独二人りしてそぐそとるもうへハのさと
去るうと・お関義者とりらるりとう・我牙のよう
いとやせめ おつま おりれへ庵ぐこの義者ぐやア独への
清 庵者夫へぐや おつま ケせうでんぐのりつと語てきとう

清 イヤモウ・何ぞ御ぢやる お夏 りう様ぢつさ 清 まあ
るう〳〵ゆう〳〵ゆるん お夏 かやぐく 清 いつもの通り
今夜も来ふおれんさういな お夏 アてモアるといのうい つ
でも出るりとこと事が稲のウ久しぶりぐらい何でも
今来ハこゆん稲へる 清 イヤ〳〵 お夏 何といつても御やや
志稲へよ 清 それハてまつる事じやとうの時につのアレ ひアレ本
じや・とさて〳〵ひるぐら お夏 それハ稲へ知ふ〳〵うてご
ゆまつてもいくのと御るくといふのぢ 男 しやうじと お夏
さんおむひでぐく お夏 こアうちやつて亜稲へ

男 アイと・行又来てり御るうさハぢ来ーでござうまんう
清 イヤモウ御ゆまん お夏 よう〳〵てぐよ 男 りしお夏
さん沈市ゆゑ来さよ お夏 フウいくさうちやつて亜
稲へ出てあるといつておきさ稲へ・といつも方八男の次市ゆゑが
ごまかせる・さんぐんるう 男 あるさハ蔭りじやアござうまんう 清
ぐ〳〵しさ掛であろふ お夏 何この事ごるうちぐあ
ぎきてさりれど出稲へ見るごこうりどにてであるア
こゆんるんしよ 清 ハテもやう事もふい事ちやま
るう〳〵ぢるとてごまつてこまてく 男 左様ぢ〳〵

行 清 そふ〳〵ごめくるること お夏 行くるくるること 清 そのもの
ちゃ〳〵ぶぐるること いふ事ッちや。 お夏 ふぜく 清
八ッ芸の事このぶ行んゆく お夏 ナアニアリあるハい〳〵
ヨろちやァおまへ〳〵ぶかヨろい〳〵 清 ハアいヨろんを掛じや
〳〵けいせいよかいいぶ〳〵るるうんのはさ お夏 すさ
るまといよのウ 清 長こ〳〵ハヨろ〳〵ぶおこ〳〵さ掛と
ちぐふてふゥい掛じやな お夏 アイてヨろやァ。押へ掛
さおまへふり〳〵つさこ〳〵ハい〳〵鑵甲ぐろ〳〵。
大じふ〳〵ておまろてあ〳〵ヨろふ。ことすつぶ〳〵しヨろふ。
ちゃ〳〵行てあるし

清 フウそれハそ〳〵と。まぐぬ〳〵の糸とまろ〳〵ん
お夏 ヨろちろくヨろちやァ。八十めさ 清 ろ〳〵い糸
じやるコウ。じやニよろてナハじやな お夏 ムシヨ。遠つさ
よ。人の糸ときくふやァ。マアおまへの糸ろ〳〵ぶ
ぐ。 清 ヨ〳〵〳〵ナ十六〳〵や お夏 〳〵エ十ヨあとふろ〳〵 清
ゆこと。でろどぶ。ろいめ〳〵とごろぐやあろぶる お夏 ま
ろ〳〵ぬ〳〵やァヨろちと女房ふりつゥ 清 ヨろまる。
を〳〵ぶアんせとゆをさろおまへ打ハぬ〳〵とふぶ
つり〳〵じや お夏 そアやァお行〳〵ぶ行ごろちと女房ふ

おまへのハ俺ごよ。あるこいりら風で。ボもさげまへんよ
ゑべもごさますのサ　清　イヤモ　ヨロシもるのはるこでよ。
そんとだまりつさるさ　喜　何のこの事ぞ人おかがづくへふ
くさるさくしいひゑんすが者しやアまへしそるまや
そそとのッレそそそそそふいつて恋こ松ハごろしこる
清　イヤまぐ出来んじや　喜　夫ごあ〜こつちで買ッウまる。
おまへの彼とごろらが彼と有るやそよ。あつ〜ふりへのッ
清　うまい中じやなそそいふ事として八仕合ての家へ
婚でなかとせるやありんそそや　喜　何のこでもまそる

るる　所世　何ごくろうて。おまのつさんおゆるーとまあ
ゆて這へ〜ふ〜　喜　何とさこ　ムシニヤヨいつて
そそくてみる　喜　何とさこごる　所世　ムシニヤヨいつて
そつつけるハ子　喜　ぐれっ　所世　りこ極てそごご。
歩んゑんしと　すそ〜清　何とこ　喜　何こしや
やーえらへ迷でじやの　所世　ムシニヤヨ　是お夏
ゆ極へあの山中も来ごせそるのとしの何ばの
青そ〜来てあ〜アた　喜　フウ。おこん食のあの
事ッ　所世　ヲくヨッレヨ　青小来こ附ホのおこん食と
いつて呂　とての同ウゆやアあち極で帰るよ高と

のぞまんとてこのこれ幽霊としてのおらるるか
まうしうんごせうしれるる 五段 フウそうやうかつてきき
ごけのそしておまへハ 第四段 ようちやう祖父のあり
とれておるうるいく 五段 そうやう
面白かうこのウ 第四段 ムヨウごんぐおうしうて及さ
いなそれうう 饗とかこの 祖父のといの祖父出ハな
ようちがせうぐんあまへるうちも切て出ると
いうこのいつもは中食ぐおるうこの祖父のこの
ちとうて追かけるこうて廣てすべるのまうう

迎このごゃを 清 何しややうてさとげう
ようて 第四段 おうん食ハようちが兄弟ぐんぐうう。
よう御合祖父けゃや。ようう祖父ハな 五段 フウ陸奥大ると。
してやん祖父こ代りてなまへこも。なといるぐうの 第四段 いつそ
丁毛がるハるなし申しの横溝と 五段 祖父とうてさ
うこのぐんぐさ実よするいな。まへぐうう。おのこれ元のこれ
祖父様よ今疾ぐんでも。丹愛へ行でなれわのよそれこの。
ちれぐうのこのおでもうて。おるやう。なまハ祖父けれど今
秋ハ宮ういの。初今まへぐうう。なまハ祖父 五段 までもさうさ

かくしゝまぶごよおろこころふいろ祝ち
何の祝ち祝四答とのご 客女 まゝでもそゝゝヤア祝
いろ祝 かゝ女 そんゝかゝいろゝゝゝお休ちんし注
食ゝハ祝ちそゝゝぶごゝ作り 客女 注が祝と
と祝と祝る

髪結

こふざるやき
文分月代よ家ひこ ろつ小接ゆき えゆひ沢山ぐこえの お田番ぶ
と接ひんますげ まゝ接じめのやゝゝゝ裏ぐ情慶びの

まるゝい八丈の弟とすし接のゝゝでかいの口結び
男ちそのあこれ大小ちんゝ接ゝゝけ赤い
編編ちめん接ぶげたゝこ入の中ちのこえ番ゝゝ
ちゝでこゝとる 女ちの男 りしゝゝ・ナトゝゝゝ接ゝ
髪結 ゝの赤ゝ文物 男 コレゝゝちんゝぶんを
ゝ出ぶゝ 男 来てゝるゝ 男 アイゝゝゝ
結てゝ 男 フウゝゝゝゝ 女 ゝ自ゝ沢ハ 男 ゝ
ゝんし 男 おゝゝゝし 女 おゝゝんし サア
二ゝゝゝ作り 男 ちゝゝとゝゝゝゝ

山〳〵あまどこヨ。ズイラデバキナサロ〳〵 女 六ヨ〳〵
おもをんし〳〵 男 又せこじのやどまるこ対変ら 女 り
ヨ代中ハよ〳〵 鶴出生をんし〳〵この 男 フウあの何して
明今ご 女 うて来ずまちちやア。おまん食へいつ行こよ
男 代食〳〵わ〳〵ハおを強へ強へ陰屋ご 女 ヨ(ヨ)ヨ(ヨ)の(ヨ)ひ敷
ヨやア。油郎ごゆ〳〵強へ 男 何ごあのふんだやヤ
ヨ。ヨてごも内るう強つ〳〵それ強へハ筋小ヨ
〳〵ヨ〳〵わ〳〵来て内るといつふご又だんくる
ふ〳〵 女 名ふ 男 もつと〳〵てきをるでコウ。おろくんで
ふくとご〳〵

来の人とつもけかし〳〵さやうこ 女 さまって。筋ごん。
大きにかけさよ 男 フウ久〳〵い拍よ とかー拍ヨ拍てサアヨ左上
ヨ。ヨ。ヨ。今おまん食ごが来やて 男 ヨ。ヨ。ヨ。

出 ちやうんでうとのゝ いまゝるまゝしい草履ゝと 家 だれゝ
かまわとそうひふぐゝ
出 うぬぐよ 家 なぜ 出 是そうぬぐよ何ぞうぬぐで
るでとしてもる 家 ゐつてうるちやうひけもゝ 出 来ぬ
ゝひよまひうまりと行てそゝぐまるゝ 家 せまゝまゝと
いのゝうのこれはちゑうて 出 せまゝの座のゝ花嫁の居
れるゝしゝやあるまゝゝモウ何の時ゝと思やうるゝゝと
ゝゝゝゝゝ大方おゝ時のゝあゝとゝれてゝやゝかゝつて猫ぐゝ
の面でまて抜わゝ自分とゝとゝるゝ安ゝとゝいゝ拍ゝ
けゝるものゝそゝゝわゝかせゝざゝゝゝゝゝゝの馬と

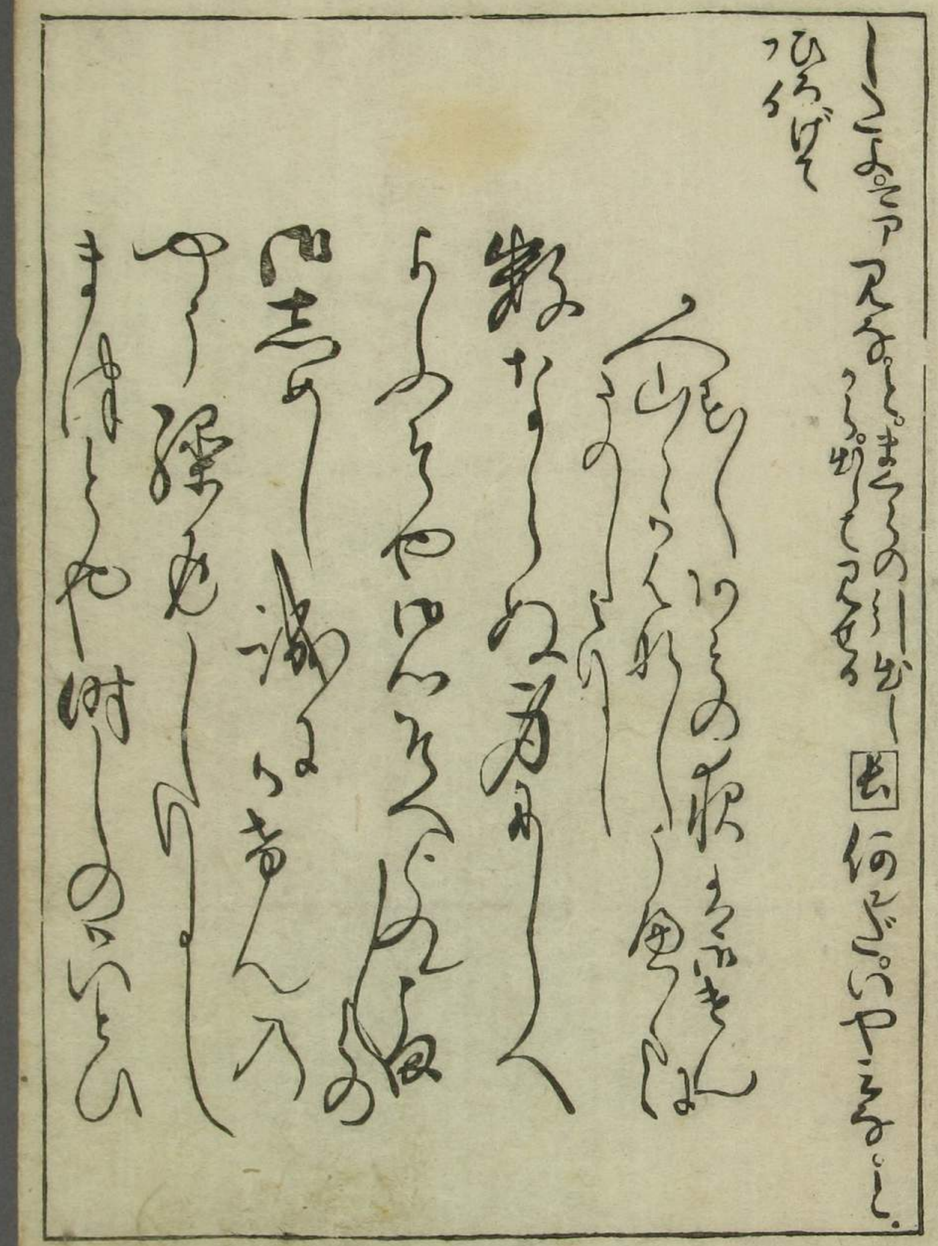
ゐるゝゝゝ 家 やうてあきれゝゝゝなまゝゝゝいゝゝ内て
今までゝゝゝとてゝるゝのゝ何のゝてんゝゝよゝ古いせゝう
ゝゝゝでゝ一ゝゝとゝいゝゝゝゝゝゝ

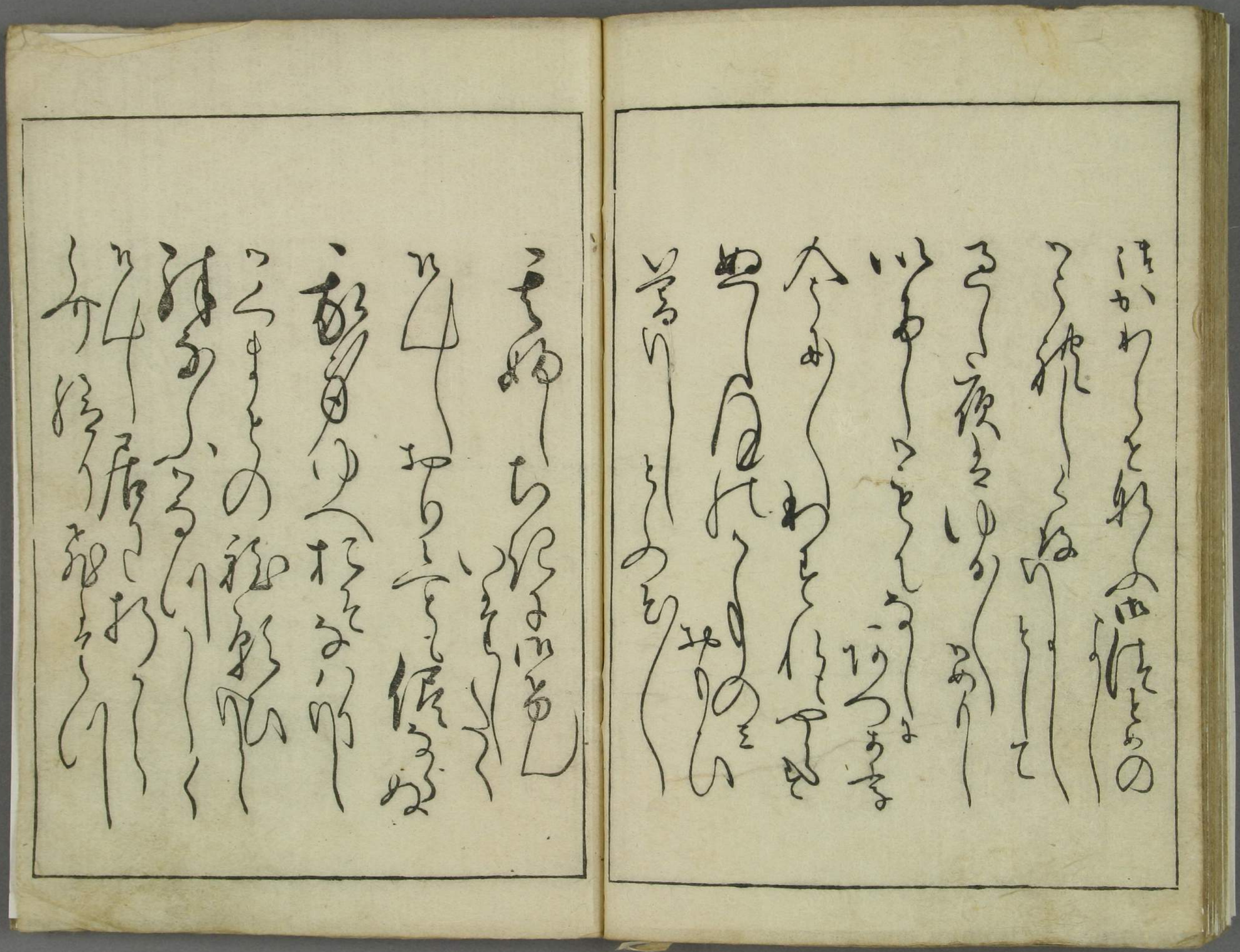
孫でゆりのそそくいつまるゆるゆるてやるまへ抱
でもみへぐわんまり出ぶい〜 家 ウヲダヘひんとすゆてハ
ア〜すれども ついあやまつて張おつきるゆせ出ようた
ゆれるでヨイワサリ〜 ちとぐ〜ひ コツ中ゆりかまちい
きうといつ石と法いでうんる 図 又春でそぶさる
のうとはいひふぐ〜 家 何ものうとい〜男の側で移れる
抱ぶ 図 おきやアぐれ 怪いぶ出ようてあきうれるハおうう
でもちろ 家 ちよりり〜 ちとりて〜ちとりて〜ちつ〜
ちく 女 ちよりあて何ぶ〜 家 おろろぐんぐうであれぐんよ

そそくいつて出番と信てすあてうん孫 女 こそうとする
のうとり 家 サア痛ち 図 出かんよ〜抱ちえい抱ぶ
ちよりて 何ちち焼市と押さぶまとうろ横だと
しし 女 ちよりて来る 家 おうぐけ 女 出さうんおれるん
ちく 家 たべてとのまゆ孫 ちとうんうろとて
あるもわる 図 ちつと
めらふう 家 うちる 図 メリヤス〜いやる宮市ちてひ
るぬ家ゆるるう〜ゆうぐうろ孫ハせまへコワイロ〜三百文の
今るかしぬ 家 おいらもほ〜い 図 やろふう 家 あと
そうちる来ると 図 安くするるコレ早てなるふるうんる

やろうでもるが弟代ハお爲よいハ長さんといつちやア。
おそ〳〵。庫の拙ヨ。庫の二ツ所もおてゐるが。場所の樣
ゑハ家 フウそうやアへのと祇ろてゐるのう図 おきやア
ぐれえんなかれ。揺ぶハ家 何のこうぶこけの弟におてのう
図 こいつア新しいまとといつさ家 コウ何のだでかごん絵図
タアまけておくハ〳〵まきれよ。今秋来さのぐう〳〵語
平ハいう孫ハ家 そんなるう〳〵いつう若麦と男ろさ附た。
だくちに孫さ附ろ。ア。絵つ〳〵〳〵まく
かろうさ図 あらるろうても。馬ひどう〳〵やアぐつて

家 うそをといひ絵図 うまく絵のうまのといや
がつても間〳〵やアうぬらアきこずめ〳〵ゆ合て
ゐるぐろう〳〵家 ア。ア〳〵きるる事とといひるんなとせる
ろをろうと図 そんなようろうもとる服ゐるハ家 ひり
いつひりじうア第ばんる図 十二ひるうア絵そうちの服
うよ家 わるまと。アてもは弟アぐとうぐうるとあんぐこ
コウこうるようがと図ある図 ドレアんせろ〳〵〳〵て。
ムようぐ。付てゐるぐとれようわうきやるのこうしてもハ
家 俗おもちやせう〳〵。コリやア大事のあろう〳〵。貴さのぐ





[illegible]
あるかれあるべきのやみ
[illegible]
[illegible]
きもあびたるうらの高さ
くとくらしの事
[illegible]
[illegible]

[illegible]
あるとりて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

跋

彼西海に任大鶴さま
海内に遍し又年中
に路遠く小蛇続られ
年を経て七月この

掛河も滿潮と成て其東も
なつ島の物で第濱に空船
みヶ浦ゆ入江の根も
かゝさむ一ぱ時腰戸の島
同あふ浦の名
も折しれりの名

15432